

## 会 議 議 事 録

会 議 名	令和5年度 第1回 学校関係者評価委員会	専門学校東京工科自動車大学校
開催日時	令和5年7月14日（金） 18:00 ～ 19:30	
会 場	専門学校東京工科自動車大学校 123教室	
参 加 者	委員 (敬称略)	7名 浅古 純一／阿部 豪気／木村 友子／荻野 嘉彦／舟橋 正晴 ／森田 憲／嶋田 章二
	事務局	3名 佐藤 康夫／園田 幸祐／荻野 洸介
会 議 録	<p>1. 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催に向けて佐藤校長より挨拶が行われ、職業実践専門課程についての概要と開催目について説明があった。</li> </ul> <p>2. 委員会成立の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より参加者の紹介と委員それぞれより挨拶が行われ、委員7名中6名出席、1名の遅刻で本委員会の成立を確認した。</li> </ul> <p>3. 議長及び書記選出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本委員会の成立を受け、事務局より阿部 豪気委員が議長として、書記として木村 友子委員を推薦し承認が得られた。</li> </ul> <p>4. 議事</p> <p>①前回議事録確認(園田)</p> <p>園田副校長より前回議事に関して説明がされ、各委員からの承認を受けた。</p> <p>②2022 年度自己評価報告の評価結果について(佐藤)</p> <p>佐藤校長より、昨年度の自己評価報告の評価結果について説明があった。</p> <p>③2022 年度実績報告(佐藤)</p> <p>佐藤校長より以下の報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度の FD・SD(教職員の能力開発・研修)の実施報告</li> <li>・2022 年度の就職実績と現学生の内定状況</li> <li>・2022 年度卒業生の整備士資格取得状況</li> <li>・2022 年度進級、卒業、退学率の結果報告</li> <li>・2023 年入学者実績および本年度の募集計画値についての報告</li> </ul> <p>④2023 年度事業計画報告</p> <p>佐藤校長より本年度の中野校事業計画ならびに主な年間予定の報告があった。</p> <p>⑤意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(森田委員)自動車整備の専門学校の定員割れは学校だけでなく、整備士業界で採用に携わるものとしても死活問題。新卒の取り合いという状態になってしまう。新卒の3年目定着率と</li> </ul>	

いう点でも、メカニックにもっと給料を出さないといけない、もっと昔からそうすべきだった。日本の悪しき習慣が残っている。このままでは整備士になりたい人が出てこない。

ドイツのマイスターはもっとしっかりと稼いでいた。ジョブ型採用等の欧米のシステムを取り入れられる時期が来ている。また、2年目になり税金がかかるようになると1年目より手取り金額が目減りするためモチベーションの問題もある。手当等の工夫が必要になる。

- ・(嶋田委員)若い方に自動車の魅力を感じてもらうため、レーシングチームを組み、レースに参加するなどアピールを行っている。また、会社の売上比率が新車販売より整備による利益が上回ってきており、メカニックの給与に還元したいが、まだセールス陣が優先されている状態である。
- ・(舟橋委員)離職率の問題として、現状は、まだまだメカニックが満足する給与にいたっていない。教育体制、人間関係等様々な角度から支援を行っているが、新卒エンジニアは1年で約10%が離職してしまっている。まず3年続けてもらうというところに注力しているが、採用業務で学生と向き合うと、まだまだ学生の思う土俵に立てていない。このような機会に他者と情報共有して業界を盛り上げていきたいし、メーカー側からも発信をしていきたい。
- ・(荻野委員)町会の行事などで人手の協力などを通じて学生達とコミュニケーションを取りながら楽しく付き合いをしている。地域の活動が育成のお手伝いになればうれしく思う。先日、地域の中学校関係者の会議に参加したところ、新型コロナによって小・中学生のコミュニケーション能力が落ちているという話があった。仕事の関係で大学の就職指導担当に聞いても同じような状況とのことだった。社会に出ればコミュニケーション能力は必須。地域としてその点を含め貢献していきたい。
- ・(木村委員)高校ではクラス数が多く、保護者の活動に関われなかったのが、工科では関わってよかった。自分は自動車のことはわからないけど、自動車を通じて息子とのコミュニケーションができてうれしい。子供の頃から自動車が好きで写真を撮りに行ったり、知らない人とも自動車を通じて仲良くなったりしていた。学校では車好きという共通項目があって他の学生と話すのが楽しそう。新型コロナの影響でできていなかった学園祭を開催してもらえると学生の状況もわかるし学校に関われるのでやってほしい。
- ・(浅古委員)来年から息子が入学する予定。「世の中義理人情」と言い聞かせながら、家業をついでほしいと伝えた。誇りのある仕事であることも昔から伝えてきた。今では本人も早く戦力になりたいと進学を決めてくれた。自分が実施している野球教室では返事やコミュニケーションを注力して指導し、状況対応能力というものを学んでもらう。信用・信頼＝財産、成功失敗ではなく信用・信頼で考えることが大切。
- ・(阿部委員)ディーラー、メカニックを育成する立場として、やりがいや魅力をいかに伝えられるかだと思っている。3年離職率の問題も、点検作業中心で時間単位で動くことが多い中で、自分で成長を実感させてあげることが大事だと感じている。これから業界全体がドイツのマイスターのような制度を取り入れていくべきである。

## 5. その他

### ①教育連携事業実績報告(佐藤・園田)

佐藤校長より高専連携をはじめとした教育連携事業についての説明があった。

園田副校長より高専連携事業の一環である、練馬工科高校での「体験」の授業についての

紹介と実績報告がされた。

②国土交通省自動車整備士資格制度見直しについて(佐藤)

佐藤校長より国土交通省による自動車整備士資格制度の見直しについて趣旨説明と制度見直しに伴うスケジュール説明がされた。

③次回委員会の日程確認

事務局より第2回学校関係者評価委員会の日時が令和5年11月16日(木)18時からと案内があり、これにて令和5年度第1回学校関係者評価委員会が閉会された。

以上

会議風景

